

コロナ禍における就職支援についての取り組み¹

はじめに～コロナ禍での遠隔就職支援体制

令和2年2月26日、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度就職活動の本格的な開始を目前にし、就職支援課で準備していた合同企業説明会、個別企業説明会、就職支援ツアー等の行事は全て中止になった。

さらに、4月に発出された緊急事態宣言により、大学構内への学生の入構も禁止され、対面の相談もできなくなった。職員も、週に数日は在宅勤務を余儀なくされ、緊急事態宣言中も、学生からのメールや電話に対する対応は継続していたものの、就職活動をする学生にとって重要な時期において十分支援ができる体制ではなくなった。

今後の見通しが立たない就職活動に臨む学生に対し、遠隔での支援をどう実施するのか、前例に倣うことのできない環境の中、情報発信と学生への支援コンテンツについて検討を重ね実施してきた。

1. 情報発信

大学のこれまでの就職支援は、ホームページ（HP）や修学支援システム等による情報発信を行うことと、就職支援課に足を運んでもらい、課内の掲示を見たり、企業の説明会や就職相談を利用したり、職員との対話をしたり等、来課による学習効果を期待した支援であり、敢えてオンラインで完結する仕組みはとっていなかった。

しかし、コロナ禍において、昨年と同じ情報や就職支援は参考にならない。今、学生にとって必要な情報をリアルタイムに発信することが重要である。どのような情報を、どのような方法で発信するかについて、逐次検討を繰り返して、実施した。

1-1. 学生への情報発信のツール

これまで、情報発信は主に修学支援システム、就職支援課HP等を活用してきた。

しかし、友人や教員と直接接する機会のない学生が、大量に届く情報をうまく収集できず、1回だけの情報発信では見落としていることが予想される。学生に情報を届ける機会を増やすため、利用できるコンテンツを新たに企画し

たり、情報発信の方法について模索したりしながら、コロナ禍において以下の支援を開始した。

① Moodle（LMS：Learning Management System）

授業実施用のコンテンツとして全学的に利用していたMoodleを活用し、就職支援のガイドとして導入した。これまで、インターンシップの登録手続き用に一部活用していたが、動画の発信や、資料の添付、就職セミナーの申し込み手続き用として導入することとした。

「令和3年3月卒業・修了者用」、「令和4年3月卒業・修了者用」、「インターンシップガイダンス・事前指導動画用」、「インターンシップ参加届用」の4コースを4月から順次作成し発信を開始した。

令和3年3月卒業・修了者用（主に学部4年生、大学院2年生対象）では、企業の探し方や面接のポイント等についての動画（就職情報企業より提供）や合同企業説明会の情報、求人情報など、今行動できる情報についてリアルタイムに掲載した（登録者は令和3年3月1日時点で138人）。

令和4年3月卒業・修了者用（主に学部3年生、大学院1年生対象）では、就職サイトへの登録会に替わる情報提供を5月に開始し、10月からのセミナーへの登録、資料の配付等をMoodleで行った。

多くの学生がすでに授業等でMoodleを利用しており、コロナ禍において学生は毎日のように確認するツールであった。修学支援システムやHP等による周知をし、学生にとって就職活動において必要なツールと認識してもらうためにMoodleの活用を促すメッセージを発信した。さらに利用促進強化のために各学部の就職担当教員を通じて学生への周知を依頼したり、電話や来課による問い合わせがあった学生に対して声掛けをしたりするなど、個々の学生に届く周知にも力を入れた。現在、1,000人を超える学生が登録している（令和3年3月1日現在1,024人）。学部・大学院を併せた就職希望者が約1,500人（医学部を除く）であるため、就職希望者の約3分の2程度の学生が利用している。

② WEB カタログ

昨年まで、多くの学生にとって情報収集の機会であった掲示板に替わるツールとして、WEBカタログ「就職支援課INFORMATION」を導入した。就職支援課に郵送やメー

¹執筆担当：岡 靖子（代表執筆）、長野 拓、見戸 亮仁、中正 壽子、中野 和歌子、堀川 理恵（令和3年3月現在）

ルで届く紙媒体の情報（合同企業説明会、企業説明会、インターンシップ等）をWEB上に置き、カタログとして閲覧できるシステムである。

学生への周知を希望する企業、自治体、経済団体等から大量に送付されるチラシ等の情報を一度に掲示でき、学内の掲示板で見えるような情報を自宅から手軽に確認することができるようになった。

③ Twitter

情報の多くをSNSから収集する機会が多い学生にとっての利便性を考え、Twitterを開設した。就職支援課での行事や利用方法等についての情報や変更等を、スマートフォンで手軽に確認できるようになった。

1-2. 求人情報の収集と発信

緊急事態宣言の発出により、企業の採用活動は大きく変化した。採用を中断する企業、オンラインで選考を進める企業等、様々であった。例年であればこの時期、多くの企業から内定が出される時期であるが、予定通りの採用活動が実施できない企業が多いという情報を、企業や就職情報企業から得ていた。募集中なのか、採用が終わっているのか、あるいは、十分応募者が確保できていないため新たに募集するのかなど、各企業の採用状況についての情報を収集する必要があった。説明会に参加できず、企業選択をする機会が十分になかった学生にとって、情報が少なく今後の見通しが立たない不安な環境が続いていることが予想されたため、これから応募できる企業がどこなのかについて企業への調査を行い、情報収集することとした。

緊急事態宣言が解除された5月に、愛媛大学合同企業説明会、個別企業説明会参加予定であった企業等に対して、現時点での応募の可否、今後の採用フローについてメールで調査（214社に送付、142社から回答）を行い、情報を修学支援システムの求人票に添付し、学生に周知した。

さらに、自治体等の公務員試験の結果が出た後の9月に、2回目の調査を行い、9月時点での採用の有無についてメールで調査票を送付し（250社に送付、164社から回答）、募集中の求人情報を一覧にし、修学支援システム、Moodleで学生に周知した。変則的な就職活動になったためか、例年に比べ多くの追加求人が届いていた。求人情報についての一覧は、これ以降毎週更新し、学生に周知した。また、求人内容によっては関連の学部の就職担当教員に送付し、学生への周知を依頼した。

2. インターンシップ

令和2年度の大学コンソーシアムえひめのインターンシップについては、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学が中止を決める中、愛媛大学のみが実施し、8月7日から11月20日の間、213名の学生が参加した。（令和元年度は197名）

学生が参加した企業数は44社であった。（令和2年度は、97社が受入れを表明した。令和元年度は121社受入れ表明し、58社が愛媛大学生を受け入れた。）

一部、オンラインを導入した企業もあったが、多くの企業では感染対策をし、対面で実施した。学生からは、コロナ禍において企業が受け入れていただいたことに対する感謝やこのような機会に参加できたことへの喜びの声が多く聞かれた。

3. 就職セミナー

3-1. オンラインセミナー

学部3年生・大学院1年生を対象として実施する初回の就職セミナーは、5月に実施する予定であったが、就職サイトを通して就職活動の方法を知ることが目的とし、Moodle上で就職支援企業から提供された非同期の動画を配信したり資料を添付したりすることで、セミナーに替わる対応を行った。

10月からの実践的なセミナーは、オンラインでの実施を早期に決め、準備を始めた。情報が少ない中、配信用の複数のパソコンの準備やパソコンに取り付けるカメラ・ヘッドセットなど、必要な機材の準備やZoom・Webex等のアカウントの取得や操作方法について、課内での準備を始め、専門の職員や指導者はいない中、体制を整えた。

10月以降、オンラインによる業務が頻繁に実施されるようになり、就職支援課内では、職員がヘッドセットをし、同時に数人がセミナーの実施や企業との打ち合わせをするなど、昨年までには考えられないような光景が日常となった。

就職セミナーは、学生はカメラ・音声ともにoffの状態での参加とした。例年実施している少人数のセミナーを複数回実施することは、会場・機材の都合上実施が難しかったため、多くの学生が参加できるように講義式のセミナーの準備をした。昨年と同様のプログラムを、全てオンラインで実施することができた。学生の来課が少ない中での実施であったが、参加者は昨年を上回る結果となった。（表1）

表1 令和2年度と令和元年度の就職セミナー（講義型）
参加人数の比較 (人)

令和2年度就職支援行事	令和2年度 A	令和元年度 B	A-B
全学就職ガイダンス 10月7日(水) 学生支援センター/就職支援課	279	377	-98
就職活動の効果的な 進め方と自己理解検査 10月14,15,16,19日 就職支援課	222	195	27
志望企業を見つける！ 業界研究講座 10月21日(水)	166	144	22
ブラック企業を見極める！ データを活用した企業研究 10月28日(水)	133	122	11
筆記試験対策と適性検査 11月4日(水)	156	114	42
エントリーシート対策 11月11日(水)	176	191	-15
第一印象で差をつける 就活マナー講座 11月18日(水)	126	81	45
面接対策 11月25日(水)	144	142	2
ワークルールセミナー 12月2日(水)	77	31	46
業界・職種・企業研究セミナー 12月9日(水)	74	32	42
国家公務員セミナー 12月22日(火)		74	-74
国家公務員セミナー 12月23日(水)		68	-68
就活総まとめセミナー 1月13日(水)	148	243	-95
アーカイブ動画視聴 1月15日(金)～22日(金)	277		277
合同企業説明会プレセミナー 2月10日(水)	85		85
合同企業説明会プレセミナー 2月17日(水)	89		89
合計	2152	1814	338

* 下線は増加

3-2. 3 社合同業界研究セミナー

例年3社合同業界研究セミナーを実施している。このセミナーでは、同じ業界等の3社の説明を聞くこととし複数の情報を同時に収集することができる。さらに、3社を比較することにより、進路選択の視点を広げ、自身の価値観に気づくなど自己理解を深めることも目的としている。令和2年度の参加状況は表2のとおりである。

令和2年度は、例年同様のプログラムをオンラインで実施した。企業の採用担当者は、企業の所在地から参加し、業界の動向や自社の事業内容・動き方について30分のプレゼンテーションを行い、最後に3社が同時に参加し、チャットによる学生からの質問を30分間受ける形式で実施する2時間のセミナーである。チャットによる学生からの質問は時間内途切れることがなく、有意義な対話の機会

となった。

令和2年度は、同様のセミナーを4回開催した。昨年に比べ開催回数は減少したが、1回あたりの参加人数の平均は、昨年を上回っていた。

表2 3 社合同業界研究セミナー

(人)

令和2年度		令和元年度	
就職支援行事	合計	就職支援行事	合計
「ものづくり」から考える 12月3日(水)	43	「ものづくり」から考える 12月5日(水)	46
「ものづくり」から考える 12月11日(金)	37	「お金」から考える 12月13日(金)	31
「情報」から考える 12月17日(水)	47	「住」から考える 12月20日(金)	33
「食」から考える 1月20日(水)	52	「情報」から考える 1月9日(水)	35
	0	「証券」「保険」の仕事 1月10日(金)	17
	0	「マスコミ」の仕事 1月14日(水)	28
	0	「食」から考える 1月16日(水)	37
合計	179	合計	227
平均参加者	44.8	平均参加者	32.4

3-3. OBOG サロン（座談会）

県内企業・公的機関等に就職した卒業生を招き、少人数の座談会を例年開催している。令和2年度は、対面による実施ができなかったため、カメラと音声を入としたZoomを使った少人数の座談会を開催した。昨年同様9事業所が参加し、合計で67名の学生が参加した（令和元年度は合計で62人）。

また、例年県内の複数の自治体に参加する交流会は、1日で合同開催しているが、令和2年度は個別の座談会として開催し、6自治体に参加し、合計で35人（令和元年度の交流会は31人参加）の学生が出席した。

4. 愛媛大学合同企業説明会

令和元年度の合同企業説明会は、対面開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催直前に中止を決定した。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、早期からオンラインでの開催を計画した。しかし、学生は対面での授業に参加できないなど、制限のある環境が続く中、学生同士の交流が少なく、孤独な環境での就職活動に不安を感じるとの声が聞かれた。これら学生の不安が

少しでも解消できることを考慮し、企業はオンライン参加であるが、学生はキャンパスに集合し対面で参加するハイブリッド方式での実施を計画し、ウィズコロナ時代を見据えた新たな取り組みとしての合同説明会を、愛媛大学生協と連携の上、企画・実施することとした。

令和3年3月2日、3日、5日の3日間開催し175社が参加した。1日3コースの説明会に企業は入れ替え制で実施し、各コース約20社が参加した。630名の学生が参加申し込みをし、3日間で延べ904名の学生が企業説明会に参加した。

開催にあたり、受付では、体調確認書の提出、サーモグラフィによる体温管理を実施し、学生には入室動線図を配付し移動時に密にならないよう工夫した。また、事前予約制をとり1教室の入室は上限を20名とし、教室移動については移動のタイミングを全体で管理し、各教室から指示を出し時間差で移動することとするなど、万全の感染対策を実施し開催した。

学生からは「企業説明の時間の設定が短い」などの不満の声はあったものの「他の就活生とリアルで接することで、モチベーションが上がった」など、肯定的な感想が聞かれ、89.1%の学生は合同企業説明会に参加して満足（とても満足、ある程度満足）と回答した。

また、合同企業説明会への参加者増員のための関連イベントとして、企業選択の視点や合同企業説明会の活用法についてのプレセミナー「自分に合った企業選びや働き方は？」（令和3年2月10日、2月17日に実施）を開催し、2日間で174名の学生が参加した。

さらに、企業と大学との連携を強化するため、合同企業説明会当日に希望する企業を対象に各学部就職担当教員と参加企業の人事担当者との懇談会を計画し、面談を希望した延べ27社の企業が就職担当教員と意見交換を行った。

5. 就職相談

例年の個別対応の就職相談は、通常3名の相談員と就職支援課の職員2名で対応している。2～3月の応募が活発になる時期には、エントリーシート対策と面接対策として4名増員して実施している。

令和3年3月卒業・修了者を対象に、緊急事態宣言が発令されるまでは対面の相談を実施していたが、緊急事態宣言下においては、予約を取っての相談は休止していた。ただし、学生からの電話やメールによる問い合わせや相談に

ついては、職員が電話とメール等で対応を継続していた。

緊急事態宣言解除後、5月11日から電話による就職相談を再開した。

就職支援課職員・就職相談を担当するキャリアアドバイザーには、全員毎日検温し記録をすることを義務づけた。体調管理を十分行い、勤務終了時に室内のアルコールによる消毒を毎日実施するなど、感染症対策を現在も行っている。

感染状況や授業の実施状況と照らし、11月までは電話による相談を継続していたが、12月からは対面の相談を再開した。対面での面接に切り替えた際、相談件数を減らし次の相談までの入れ替えの時間を長くし、アルコール消毒と換気を行うこととした。また、学生は、対面と電話の相談を選べるようにした。対面の就職相談を希望する学生については、事前に電話にて体調の問診を行い、当日は検温と体調確認書の提出を求めるなど、感染症対策を徹底して支援を行うこととした。

しかし、授業がオンライン中心に切り替わった1月からは再び電話による相談に変更した。2月から実施する面接対策の相談に関してのみオンライン（Zoom）で実施した。ただし、個別相談については、学生の個人情報を扱うことが多く、個人情報の安全性の観点から電話での相談を継続している。

6. 学生への情報発信の結果

学生の情報収集の方法について、令和3年3月卒業・修了者¹⁾と令和4年3月卒業・修了者（最終回のセミナーへの参加者²⁾に対して2月にアンケート調査²⁾を実施した。

令和3年3月卒業・修了者、令和4年3月卒業・修了者の就職のセミナー等の情報収集の方法については、表3、表4の通りである。

¹⁾ 令和3年3月卒業・修了者対象アンケート調査は、令和3年2月3日～15日に、卒業対象学年に対して送付。

²⁾ 令和4年3月卒業・修了者対象アンケート調査は、令和3年2月10日～23日に、最終回のセミナー「自分に合った企業選びや働き方は？」（2月10日、17日に実施）に参加した学生174名に対して送付した。Microsoft Formsを活用し、調査票にはアンケート調査の目的を記入し、WEB上のアンケートフォームのURLと二次元バーコードを添付し、参加に賛同した学生がフォームに回答する方法で実施した。

表3 令和3年3月卒業・修了者の就職セミナー等の情報収集の方法（複数回答）

修学支援システム	18.9%
友人	15.7%
掲示板	15.2%
就職支援課内の掲示	13.8%
教員（指導教員）	6.5%
教員（就職担当教員）	6.0%
就職支援課職員	6.0%
就職支援課のHP	3.2%
就職支援課のMoodle情報	2.8%
就職支援課WEBカタログ	0.9%
その他	11.1%
合計	100.0%
n = 217	

表4 令和4年3月卒業・修了者の就職セミナー等の情報収集の方法（複数回答）

修学支援システム	51.9%
就職支援課のMoodle情報	33.7%
教員（指導教員）	2.9%
友人	2.9%
掲示板	1.9%
HP 就職支援課	1.0%
就職支援課内の掲示	1.0%
指導教員（就職担当教員）	1.0%
就職支援課職員	1.0%
その他	2.9%
合計	100.0%
n = 104	

令和3年3月卒業・修了者は、従来通り、修学支援システム、掲示板、就職支援課内の掲示に加え、友人が情報元になっている。それに対して、令和4年3月卒業・修了者は、掲示等の活用機会が減少したため、修学支援システムの割合が増え、新たにオンラインのツールとして導入したMoodleの利用が増加した。このデータから、学生は、厳しい環境下において大学発信の情報を自ら収集する行動が広がっていることが窺える。令和4年3月卒業・修了者に関するデータは、最終回のセミナーによる調査であり、対象者に偏りはあるものの学生の情報収集は、修学支援シ

ステム、Moodle等、オンラインのツールによる情報収集への移行が進んだことが窺える。

大学が実施する就職支援の利用は、必須ではないため、学生の選択による利用であり、必ずしも全学生が支援を受ける場所ではない。しかし、今年度はオンラインツールの広がりにより多くの学生に対し就職活動初期に大学発信の情報にアクセスする仕組みができたことは、大学による就職支援が有効となる就職活動晩期の学生への支援機会の広がりにも期待できる。

特に、Moodleは、コロナ禍における遠隔支援として今年度から導入したが、今後は授業のみならず、就職支援においても学生への情報発信ツールとして活用できるものと考えている。

7. 卒業・修了者の満足度

6. 学生への情報発信の結果で示したアンケート調査¹⁾について就職先の志望度と、満足度についての調査結果は表5、表6の通りである。

表5 就職先の志望度

第一志望	63.5%
第一志望以外	35.7%
その他	0.9%
合計	100%
n = 115	

表6 就職活動に対する満足度

満足	54.7%
やや満足	34.2%
やや不満	5.1%
不満	6.0%
合計	100%
n = 117	

これらの結果から、60%以上の学生が第一希望の職場に就職することができたと回答し、自身の就職活動について、90%近くが満足（満足+やや満足）と評価した。

アンケート調査の自由記述欄には、「家族と同じ部屋で暮らしていたため、オンライン面接がやりづらい」「もっと企業について生の情報を手に入れたかった」「予約していた個別説明会が延期になり、再開未定で不安が募る」な

表の数値は、四捨五入の関係で100%にならない場合がある。

ど、面接や情報不足による困りごとについての感想が聞かれた。

その一方で、「(企業から) オンライン面接に関して、ソフトのインストール方法から会議ルームの入室の仕方までわかりやすい説明を頂いた」など、コロナ禍ならではの企業からの配慮や、「直接面接ではなくリモート面接だったことのメリットのほうが大きく感じられる」、「終わってみれば交通費がかからないリーズナブルな就職活動であったと強く感じる」など、厳しい環境下における就職活動を肯定的に捉えるコメントもあった。

また、「就職支援課は具体的支援というイメージがあり、精神的なものという曖昧な悩みの時に頼りにくかった」「対面での支援が全く受けられなかったことが大変だった」など、メンタル面を含めた個別の対応についての要望もあった。個別の支援については、費用、業務の effort、人員などの課題はあるが、手厚い支援ができるよう検討することは今後の課題である。